菊メガ団地の一斉収穫作業を視察

9月16日(金)、当JAの佐藤広美組合長と男鹿市の佐藤博副市長らが、男鹿・潟上地区園芸メガ団地で小菊の一斉収穫機による作業の様子を視察しました。同メガ団地利用組合の吉田洋平組合長らが、一斉収穫機の導入経緯や電照栽培技術で需要期に合わせた開花調節などを説明しました。

同メガ団地は国の「スマート農業実証プロジェクト」に令和元年度から参加し、一貫した機械化によって大規模な安定出荷体系が確立できるように取り組んできました。今年5月には「農業イノベーション大賞2022」の選考委員会特別賞を受賞し、先端技術を活用した意欲的な生産活動が評価されています。

一斉収穫機による収穫の様子を観察する佐藤組合長ら

小学生が稲刈りに挑戦

9月から10月にかけて、管内の学習田で小学生が鎌を使った刈り取りを体験しました。

9月26日(月)に秋田市立飯島南小学校の5年生が、秋田厚生医療センター近くの学習田で稲刈りを行いました。10月3日(月)には男鹿市立美里小学校の5年生が男鹿市道村で「あきたこまち」を刈り取り、コンバインの収穫作業の見学もしました。

子どもたちは協力しながら黄金色になった稲穂をていねいに収穫し、「大変だけど楽しい」「早く食べたい」などと歓声を上げました。収穫を終えた児童は「農家が苦労して米を作っていることがわかった。これからは給食を残さず食べたい」と話しました。

学習田で稲を刈り進める児童

NEWS & TOPICS

経営・所得の安定化を目指して冬の園芸研修スタート

10月6日(木)、秋田市園芸振興センターの冬期農業研修の開講式が開かれました。今年度は5名が、来年3月までの半年間に野菜や花きの栽培について実習で学ぶほか、栽培施設や資材の研修なども行い、冬期間の園芸農業の技術を身に付けます。

同研修は今年で9年目となり、周年型の農業を促進して農業経営や所得の安定化を目指しています。研修に参加する秋田市河辺の(農)はたやファームの尾形颯さんは「水稲を主に栽培しており、稲作がない冬期間の農業生産を学びたいと思った。今後作付けしていく品目を研修で見つけて、栽培技術などを習得したい」と話しました。

冬期間の農業技術の習得に意気込む研修生

盛況の新米「あきたこまち」セールで136トン販売

10月9日(日)に船越低温倉庫で、10日(月)に上新城、太平、四ツ小屋低温倉庫で、令和4年産「あきたこまち」の玄米を特別価格で販売する「収穫感謝セール」が開かれました。新米を求める地域住民が朝早くから長い車列を作り、例年よりも早く完売する盛況ぶりとなりました。

会場にはカントリーエレベーターやライスセンターで乾燥調製した1等米の30キロ袋が並び、ドライブスルー方式で販売しました。混雑緩和のため事前予約を行ったほか、会場で完売後に予約注文も受け付け、予約数を含めた販売数量は合計で4534袋(約136トン)に上りました。

「あきたこまち」を来場者の車に積み込む職員

★今月のあなたの運勢 2022年11月★ 双子座（5.21～6.21） 中旬までは計画的に動けます。仕事や学習の時間を詰め込んで。下旬は自由な時間を楽しみましょう。外出も吉